

## 「キャンプデンでのゴミへの意識」

三木 健史

オーストラリアはとにかく空がとても澄んでいて、乾燥していたため朝起きると全身がカサカサでたいへんでした。また、キャンプデンの街並みは日本のようにごみごみとせず、どの家にも広い芝庭やプールなどがあって、とてもリッチで優雅な生活だな～ととても羨ましく感じました。オーストラリアの道路は日本とは大きく違う。道幅が広く、制限速度も大きく、信号もありませんでした。そして、道路を観察していて私が気になったのは、20～50mおきに必ずゴミ箱が設置されている事でした。そのお陰か歩道のゴミは日本よりも少なく感じました。

また、日本にはリサイクルや燃えるゴミ、燃えないゴミ、危険ゴミ・・・などの区別があり、それぞれのゴミの日がまっています。キャンプデンの家庭では区別は一切なく、全てのゴミを台所のゴミ箱に捨てて、週一回大きな集積場へ持っていくと言っていました。

ウグラマイのキャンプ場では、可燃ごみ、不燃ごみ、ビン、カンなどの区別はありましたが、皆は一切気に留めずに、全て一緒くたにして捨てていました。

今回のステイで自分の中で特に印象深かったのは、オーストラリアの人々は食べ残しや、食べかけのものをすぐに捨ててしまうという事でした。日本をでて初めて“もったいない”という言葉が通じないことを実感して、とても驚きました。ホストフレンドの通っているエリザベスマッカーサーハイスクールでは、そこら中にバケツのようなものが用意されていて、みんな食べかけのものをすぐに捨ててしまうのです。オーストラリアの人の家はとても綺麗で、家には無駄なものが一切ないという事実も重ねて考えると、一概にどちらが良いとか悪いとかは言えず、食べ物の豊富なオーストラリアならではのと思いました。

もうひとつ私の印象に残ったのは、ブルーマウンテンでの事でした。ブルーマウンテンにはゴミ箱が無かった為、森の中に沢山のゴミが捨てられていました。恐らくはオーストラリアに住む人では無く、大勢の観光客のうちのほんの一握りでしょうが、せつかくのオーストラリアの美しい自然を残して行って欲しいと思いました。



(エリザベスハイスクールにて)